

< 特別寄稿 >

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介させていただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第14回

ゲンチアナ



ヨーロッパの高地に自生し、1-1.5メートルにもなる多年草のゲンチアナは学名が*Gentiana lutea*でリンドウ科に属しています。



学名のラテン語*lutea* (黄色) が示すように花が黄色と言う特徴を持っています。

リンドウ科植物の多くが含有するセコイリドイド、特にゲンチオピクリン含量が高く、従って根は苦味健胃薬として古くから用いられてきました。

採取した根は、若干発酵した後ゲンチアナ根としたものをドイツやスイスから輸入し健胃薬原料としています。

その他リキュール製造に用いたり、化粧品への適用も知られています。

本画は、ヨハン・ゾーンにより1779年に描かれたものです。